



あたらしい本



『地球の歩き方 すごい地球!』地球の歩き方編集室 (Gakken)

社会の先生にもファンが多い海外旅行ガイドの定番「地球の歩き方」シリーズ。その編集部が厳選した、地球のすごさを感じることができる旅の紹介。オーロラ、火山、氷河、恐竜、レアな動物など…実際に行けるかは別として、本の中で地球46億年の神秘に満ちた旅を楽しもう!



『音のない世界でコミュカを磨く』難聴うさぎ (KADOKAWA)

生まれつき耳が聞こえず、補聴器をつけて生活をしている難聴うさぎさん。現在YouTuber、会社経営、タレントとして活動し、SNS総フォロワー55万人を超えるインフルエンサーとして活躍中。障がいを抱えながらも「自分の人生を前向きに生きる」をモットーにやりたいことを実現させる著者のエッセイ。



『私だけ年を取っているみたいだ。ヤングケアラーの再生日記』

みずたにみどり ぶんげいしゅんじゅう
水谷 緑 (文芸春秋)

精神的な病を持つ母、家庭に無関心な父、特別扱いされる弟、認知症の祖父…ゆいは幼いころから、買い物・料理・掃除・洗濯など家族の世話をしていた。母の暴力に耐えながら自分の感情を押し殺し、生きるのに精一杯だった子ども時代。そして大人になってから「ヤングケアラー」として自覚する…。仕事、結婚、子育てを通じて、悩みながらも失った感情を取り戻すまでの再生の物語。マンガですが貸出できます。



『6カ国転校生ナージャの発見』キリーロバ・ナージャ

しゅうえいしゃ
(集英社インターナショナル)

6つの国(ロシア・日本・イギリス・フランス・アメリカ・カナダ)に住み、4つの言語で学んでいた著者。小学校の筆記用具はえんぴつ?ペン?数字の書き方は?体育では何の順に並ぶ?...などなど。国が変われば「ふつう」も変わる。「絶対的な正解」なんてなく、一人一人の「正解」をみんなで見つけたい。6カ国転校生ナージャが見つけた素敵な考え方のヒント。



『僕たちの部活がなくなる？だったら自分で放課後を

デザインしよう！』青柳健隆（旬報社）

「部活動の地域移行」って聞いたことがありますか？学校での部活がなくなるって、どういうこと？どのような未来が待っているのか、そして今後はどのような放課後を過ごせばいいのか。中学生にも考えてほしい、部活動の未来。



『スラムダンク論語』遠越段（綜合法令出版）

『スラムダンク』はマンガ版「論語」である！？連載が終了して25年以上経っても人気のマンガ『スラムダンク』。そして、世界中で読み継がれている、やくにせんごひゃくねんまえ てつがくしゃ こうし おし あつ ごろく ろんご きょうつうてん 約二千五百年前の哲学者・孔子の教えを集めた語録『論語』。ふたつの共通点は、読むたびに新しい発見があるということ。『スラムダンク』の名言と、それに対応する『論語』を読み解いていく。



『ロゴづくりの研究室』かねこあみ（日貿出版社）

看板やポスター、本の表紙やお菓子のパッケージ。いろんな場面で見かける文字をデザインした「ロゴ」。見る人にイメージをさせるのに役立つロゴ。デザインの意図やコンセプトからどのように具現化するか、相手に伝わるようなビジュアルの作り方などを楽しく読んで学べる1冊。



『夜空にひらく』いとうみく（アリス館）

アルバイト先で暴力事件を起こし、家庭裁判所に送致されたのち試験観察処分となった鳴海円人。幼い頃に母が家を出て行き、祖母と二人暮らしだった円人は早く自立したいと思いアルバイトをしていたが、そのなかで起きた事件だった。事件後、円人は山梨県で花火製造所を営む深見静一の家で預けられる。深見と深見の母、住み込みで働く双子の花火師と一緒に暮らすうちに、自分の居場所を見つけていく。



『星屑すぴりっと』林けんじろう（講談社）

中1のイルキが慕ういとこの大学生せいちゃんが、難病にかかってしまった。多発性硬化症という病気で、ベッドから出ることもできず体も心も弱ってしまっていた。症状が進行するなか、せいちゃんが「映画を観たい」と言い出す。その映画が何か分からない。せいちゃんの望みをかなえたいイルキは、同級生のハジメの力を借りて、映画を探しに京都へと旅に出る。